

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	1	施策名	学校教育の充実	重点施策		施策主管課長名	久保 隆義	
施策関係課名	霧島ジオパーク推進課、教育総務課、学校教育課、保健体育課、生涯学習課、メディアセンター、国分中央高校								
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
<p>■子どもたちが社会を生き抜く力を身に付けるため、確かな学力の定着、思いやりの心と目標を持ち続け努力する心の醸成及び健康づくりや体力の向上を図る。</p> <p>■安心・安全な教育環境を確保するため、年次的な教育施設改修等や防災教育及び交通安全教室などによる安全教育の推進を図るとともに、人材、自然などの地域の教育力を活用して、特色ある教育活動を推進する。</p> <p>■国分中央高等学校をより魅力ある専門高校とするため、新設学科を中心に教育環境を整備し、生徒の進路決定率を高める。</p>									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		幼稚園児、児童、生徒							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	幼稚園児の人数(※市立、私立)	人	見込み値	1,800.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00
			実績値	1,776.00	1,816.00				
B	児童(小学生)の人数(※市立)	人	見込み値	8,143.00	7,527.00	7,441.00	7,531.00	7,553.00	7,687.00
			実績値	7,639.00	7,382.00				
C	生徒(中・高)の人数(※市立)	人	見込み値	4,616.00	4,716.00	4,721.00	4,589.00	4,543.00	4,429.00
			実績値	4,777.00	4,645.00				
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		知・徳・体の調和の取れた成長をする							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立小5)	%	成り行き値	101.0	101.0	101.0	101.0	101.0	101.0
			目標値	101.6	101.8	102.0	102.3	102.6	103.0
			実績値	101.2	100.2				
			達成率	100%	98%				
			結果	○	○				
B	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中1)	%	成り行き値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			目標値	98.3	98.6	99.0	99.3	99.6	100.0
			実績値	98.2	103.2				
			達成率	100%	105%				
			結果	○	◎				
C	鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中2)	%	成り行き値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			目標値	98.3	98.6	99.0	99.3	99.6	100.0
			実績値	101.2	99.3				
			達成率	103%	101%				
			結果	○	○				
D	児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合	%	成り行き値		54.0	54.0	54.0	54.0	54.0
			目標値		56.0	58.0	60.0	62.0	64.0
			実績値	57.2	54.8				
			達成率		98%				
			結果		○				
E	体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合	%	成り行き値		99.0	98.0	97.0	96.0	95.0
			目標値		100.5	101.0	101.5	102.0	102.0
			実績値	99.4	98.0				
			達成率		98%				
			結果		○				
F	進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)	%	成り行き値		85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			目標値		86.0	86.0	87.0	87.0	88.0
			実績値	85.0	86.0				
			達成率		100%				
			結果		○				

⑤ 成果指標の測定方法（実際にどのように実績を把握するか）	⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方
<p>A 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立小5)</p> <p>B 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中1)</p> <p>C 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合(市立中2)</p> <p>※A, B, C 小学校5年生、中学校1、2年生を対象として実施している鹿児島学習定着度調査(平成25年度から、「基礎・基本」定着度調査は鹿児島学習定着度調査と名称を変え、調査内容の見直しを行って実施。)</p> <p>D 児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合</p> <p>※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p> <p>E 体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合</p> <p>F 進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)</p> <p>※国分中央高校生の「生徒による学校生活に関する自己評価」</p>	<p>A 「鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市平均通過率の割合」については、平成25年度の通過率実績値は、小5が100.2、中1が103.2で、県平均を上回っているものの、中2の通過率実績値は、99.3で県平均を下回っている。中2は県平均に届いていないことから、様々な対策を講じることで、小5は103%、中1・2は100%を目標値とする。</p>
	<p>B 同上</p>
	<p>C 同上</p>
	<p>D 「児童生徒のあいさつや、交通ルールを守るマナーが良くなっていると思う市民の割合」については、市民意識調査(平成23年度)によると54.0%の市民がマナーが良くなっていると回答していることから、学校教育や地域の教育力向上を通じて、10ポイント改善することを目指す。</p> <p>E 「体力テスト(小5・中2)の県平均値に対する本市の平均値の割合」については、学校体育の充実や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団活動及び部活動を活性化することにより、県平均値以上の102%を目標値とする。</p> <p>F 「進路について真剣に考え、模試や資格取得等に積極的に取り組んでいる生徒の割合(国分中央高等学校)」については、平成21年度の実績が84.7%、平成22年度の実績が85.3%、平成23年度の実績が85.3%で、学年別で平成23年度を見ると、高1が83.0%、高2が82.0%、高3が91.0%であり、1・2年生が平均を下げる要因となっていることから、1・2年生の意識を高める指導を行うことで、2.7ポイント改善することを目指す。</p>

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 「計画→実践→評価→改善」のサイクルにのっとり学力向上プランを推進する必要がある。また、授業力の向上を目指して、教職員研修のあり方を検討する必要がある。さらに、中学校進路指導の充実を図る必要がある。
- 特別支援教育を充実するため、学校全体としての共通理解や、保護者に対する理解を深める必要がある。不登校を未然に防止するため、より一層関係機関との連携を強化するとともに、長期化傾向の不登校の児童生徒への対策を強化する必要がある。
- 「教育の情報化」に対応するため、ICT(情報コミュニケーション技術)教材や校内ネットワークの整備等を進める必要がある。
- 運動不足や体を動かす機会の減少による体力の低下が問題となっていることから、運動不足傾向の児童生徒に対する働きかけを行う必要がある。また、食育については、子どもたちへの食に関する指導の充実とPTAなどと連携して保護者も含めた意識高揚を図る必要がある。
- 特色ある教育活動の指導を行う人材の確保や人材リストの作成、近隣の学校間での情報共有等、学校応援団の活性化を図る必要がある。
- 小学校入学後の適応能力向上のため、幼稚園教育要領に基づき、基本的生活習慣の定着を図る必要がある。
- 国分中央高校は、生徒数の確保と就職・進学率向上に引き続き努めていく必要がある。また、魅力ある専門高校にするため、高度資格取得のための実習環境等の整備や、部活動の推進等を図る必要がある。
- 国分中央高校の新設学科(スポーツ健康科・ビジネス情報科)の教育内容を充実させるため、特色あるカリキュラムの実施や、計画的に必要な施設・設備の整備を進める必要がある。
- 児童生徒等の安心・安全な教育環境を確保するため、年次計画に基づき大規模改造等の校舎リニューアルを進める必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■学校 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な指導により、児童生徒の学力、道徳性、体力の向上を図る。地域や保護者には、学校活動の公開や情報発信に努める。 ■教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・教育振興基本計画の見直し。 ・教職員への指導・助言により、資質の向上を図る。 ・教育環境の整備。 ■県、文部科学省 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の任命及び指導、助言。 ・学習指導要領の完全実施。 ・教育振興基本計画の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習(6090運動)の習慣化を図る。 ・あいさつの励行。 ・一家庭一家訓の実施。 ・運動の習慣をつける。 ■地域、コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ・登下校交通安全指導やあいさつ運動等、地域における子どもたちへの声かけの励行。 ・学校・地域の各種行事への参加。 ・学校応援団への積極的な参加。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 児童生徒数の増減について、地域間格差が顕著になる。
- 学校教育に関する地域や保護者の関心が一層高まる。
- 学習指導要領の完全実施に伴い、教職員の資質向上を更に図る必要がある。
- 校舎等の老朽化により、修繕、大規模改造等が必要になってくる。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 学力・体力向上や心の教育の推進をさらに図るべきとの声がある。
- 少人数指導や特別支援教育など、個のニーズに応じた指導の充実を求める声がある。
- より適切な教育環境の整備が求められている。

5 施策の現状

① 平成25年度施策の取組方針	② 平成25年度施策の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■児童生徒の夢や志を育むために、幼・小・中・高連携や個に応じた指導等を通して、学力向上を基盤とした進路指導の充実を図る。 ■児童生徒の思いやりの心を育てるために、学校での心を磨く体験活動を通して、心の教育の一層の推進を図る。 ■なお、いじめ問題への適切な対応をするために、いじめ問題対策支援室を新たに設置する。 ■安心安全な教育環境を確保するために、小学校校舎等の大規模改造工事や、国分中央高校の校舎改築工事を引き続き行う。 ■また、児童生徒の安全を確保するために、交通事故防止や防災などの安全教育の更なる充実を図るとともに、通学路の合同点検を実施するなど、関係機関との連携を強化していく。 ■食育の充実を図り、安心安全な給食を提供するために、国分地区の一部の自校方式の調理場の整備と福山地区の学校給食センター建設のための基本設計を行うとともに、各給食施設の適切な維持管理に努める。 ■スポーツ健康科の充実を主眼とした施設等の整備を行い、部活動等の支援を強化するとともに、生徒の進路決定率を高めながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■各小学校においては、児童の夢や志を育むために、「きりしまっ子10年カレンダー」の活用例をまとめ、各学校の指導に生かすようにした。各中学校においては、市内共通の実力テスト(2・3年)の問題作成・実施を行い、過去2年間の卒業生の進路先との相関表を各学校に配布し進路指導の充実を図った。 ■児童生徒の心を磨く体験活動として、各学校でトイレ掃除を実施した。実施に際して、トイレ掃除についての指導方法に関する研修会を実施し、各学校から教職員が参加した。いじめ問題に適切な対応をするために、いじめ問題対策支援室を設置し、電話や来所者への対応、全学校への学校訪問を実施し、いじめ問題等の解決や未然防止に向けての支援を行った。 ■平成25年度予定していた小学校校舎等の大規模改造工事等や国分中央高校の校舎改築工事については、予定通り行うことができた。また、学校通学路の安全対策を万全にするため、合同点検を市、警察及び各学校が連携し、3日間かけて実施した。また、鹿児島大学や鹿児島地方気象台と協力して大田小ほか2校で防災支援事業を活用した防災教育を実施し、普及啓発に努めることができた。 ■学校給食施設整備事業により、国分地区の一部の自校方式の調理場及び福山地区の学校給食センター建設のための実施設計を行うとともに、各給食施設の適切な維持管理を行うことにより安心安全な給食の提供に努めた。 ■第3グラウンドに照明施設の整備を行い、部活動等に外部指導者を派遣し部活動等の強化に努め、陸上競技、ハンドボール、柔道、ダンス、フラーアレンジメント、農業鑑定競技などの全国大会出場や柔道の個人においては全国・世界で活躍したほか、生徒の進路決定率が100%に達成し、専門高校として国分中央高校の魅力を高めた。

③ 平成25年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
 目標をほぼ達成 ○ 95%～105%未満
 目標を未達成 △ 95%未満

平成25年度成果指標				結果
目標値	実績値	達成率		
A	101.8	100.2	98.0%	○
B	98.6	103.2	105.0%	◎
C	98.6	99.3	101.0%	○
D	56.0	54.8	98.0%	○
E	100.5	98.0	98.0%	○
F	86.0	86.0	100.0%	○

④ 平成25年度施策の成果指標の達成状況及び要因

A、B、C 鹿児島学習定着度調査の県平均通過率に対する本市の平均通過率の割合については、中1は、目標値を4.6ポイント上回り目標値を達成し、小5、中2については目標値をほぼ達成した。その要因として、小学校では「きりしまっ子10年カレンダー」を活用し、児童の夢を育み、学習意欲を高め、中学校では実力テストを活用し、学力向上の基盤とした進路指導の取組が充実したことが考えられる。
 D 児童生徒のあいさつについては、児童会や生徒会活動などで「朝のあいさつ運動」に取り組んだり、PTA活動の一環として、校門や通学路であいさつ運動を実施したりすることで、児童生徒のあいさつの習慣化につながっていると考えられる。また、交通ルールを守るマナーの一つとして道路横断時の立哨保護者や先生へのあいさつが浸透されてきたものと思われる。
 E ほぼ横ばいで推移したが、全体的には8種目中6種目で下回った。その要因として児童生徒の生活の変化に伴う、運動の機会の減少が考えられる。
 F 資格取得のための実習施設の整備や資格取得意欲を高める雰囲気づくりに努めたことや進路指導の一環として資格取得の指導を行ったほか、一人ひとりが希望する進路が実現できるように個々の生徒に合わせた支援を行った結果、目標値の86%に達成した。

⑤ 基本事業の目標達成度
 (平成25年度目標と実績との比較)

○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成	
① 学力の向上と個性を育む教育の推進	○
② 豊かな心を育む教育の推進	○
③ 健やかな体を育む教育の推進	×
④ 特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進	○
⑤ 教育環境の整備	△
⑥ 幼稚園教育の推進	○
⑦ 魅力ある高等学校教育の推進	○
⑧	

6 平成26年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

- 児童生徒の夢や志を根幹に据えた進路指導を含めた生き方指導を推進するとともに、指導法改善をさらに推進し、学力向上を図る。
- 児童生徒の思いやりの心や規範意識を高める取組をさらに具体化し、心の教育の一層の推進を図る。また、不登校、いじめ問題に関して関係機関との連携を図った取組をさらに推進する。(※大学との連携、スクールソーシャルワーカー等との連携)
- 年次計画に基づき学校施設等の整備を進める。また、スクールガード・リーダーが積極的に校区の連絡会等へ参加するなど、学校や地域との連携を深めることによって、事件や事故の防止に繋げる。
- 学校給食の安定運営のために、既存の給食センターの適切な維持管理を行う必要があるため、学校給食施設整備計画等に基づいて、関係課と連携し年次的に施設整備を進める。
- 高度資格取得のための学習環境等の整備や部活動等の支援を強化するとともに、生徒の進路決定率100%を維持しながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。

7 平成27年度に向けた施策の課題・方向性

- 児童生徒の夢や志を根幹に据えたキャリア教育を推進するとともに、各学校の実態に応じた学力向上対策を支援する。
- 児童生徒の思いやりの心や規範意識を高める取組を実施し、心の教育の一層の推進を図る。また、不登校、いじめ問題に関して関係機関との連携を図った取組をさらに推進する。
- 引き続き年次計画に基づき老朽化の著しい学校等を優先して施設整備等を進めていく。
- 学校給食施設整備事業により、計画に基づき関係課と連携し施設整備を進めていくとともに、老朽化等による施設設備の補修については、適宜、対応していくことで安心安全な給食を提供していく必要がある。
- 部活動等の支援を強化するほか、施設の改修やスポーツ施設の整備に着手するとともに、高度資格取得のための学習環境等の充実を図り、生徒の進路決定率100%を維持しながら、国分中央高校を魅力ある専門高校にする。

基本事業No.	4-1-1	基本事業名	学力の向上と個性を育む教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	------------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 小・中学校の進路指導の充実を図り、児童生徒の夢や志を育む。
- 教職員の指導力向上を図り、児童生徒一人ひとりが分かる授業づくりに取り組む。

②対象	・児童 ・生徒 ・教職員	③意図	・確かな学力を身に付ける ・個に応じた指導が受けられる ・指導力が身に付く
-----	--------------------	-----	---

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	成り行き値	成り行き値	成り行き値	成り行き値	成り行き値
A 確かな学力を身に付けることができた児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値		65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
			目標値		70.0	71.0	72.0	73.0	74.0
			実績値	68.4	73.0				
			達成率		104%				
			結果		○				
B 個に応じた指導が受けられた児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			目標値		78.0	80.0	82.0	84.0	86.0
			実績値	75.2	78.3				
			達成率		100%				
			結果		○				
C 授業が楽しい、分かりやすいと回答した児童生徒の割合	%	学校評価結果(児童生徒)	成り行き値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			目標値		80.0	82.0	84.0	86.0	88.0
			実績値	77.5	83.2				
			達成率		104%				
			結果		○				
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は74%の児童生徒が確かな学力を身に付けることができるようにする。
- B 平成24年度の値を基に、毎年2%増を目指し、平成29年度は86%児童生徒が個に応じた指導が受けられるようにする。
- C 平成24年度の値を基に、毎年2%増を目指し、平成29年度は88%の児童生徒が授業が楽しく分かりやすいと回答できるよう授業改善を行う。

4 平成25年度基本事業の取組方針

- 児童生徒が基礎、基本を身に付けるための具体策について、学校間で温度差があるため、市内の先行事例を紹介するなど、これまで以上に積極的に学校への働きかけを行う。
- 個に応じたきめ細やかな学習指導を行う必要があるため、教科によっては習熟度別の授業を行うなど、各学校により一層の工夫を求める。
- 教員がよりわかりやすい授業を実践できるよう、電子黒板活用研修会を企画するなど、教員の資質向上に取り組む。

5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況

- 各教科主任等研修会等を開催し、児童生徒が基礎・基本を身に付けるための具体策を担当指導主事が指導するとともに、ワークショップ型の研修を設定し、各学校の職員研修等で還元できるようにした。
- 個に応じたきめ細やかな学習指導を推進するために、指導法改善等の教員を配置し、算数や数学、英語等の時間に習熟度別の授業を行った。
- 各学校に電子黒板の効果的な活用方法に関する研修会を、市メディアセンターと連携して企画した。また、管理職研修会でICT教材・機材の効果的な活用が図られるように周知した。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A、B、C すべての成果指標で実績値が上昇し、目標を達成した。その要因としては、各教科主任等研修会等において、数値に基づいた分析を説明し、ワークショップ型の具体的な研修を行ったことにより、指導法改善が図られたこと等が考えられる。

7 平成26年度基本事業の取組方針

- 児童生徒が意欲的に学習に取り組み、思考しながら、成就感・達成感を得られるような授業づくりがなされるよう学校の実態に応じた働きかけを行う。
- 個に応じたきめ細やかな学習指導を行うための工夫を学校の実態に応じて行う。
- 分かりやすい授業づくりに向けて、デジタル教科書や電子黒板の効果的な活用に向けた研修を充実させる。
- 小・中・高一体となった英語教育の推進を図る。

8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性

- 身に付けた基礎的・基本的な内容を活用し、児童生徒の思考力を育む授業づくりがなされるように支援する。
- 児童生徒が「分かった」「できた」と実感できるように、個人差や個性等を考慮した指導法改善を支援する。
- 市メディアセンターと連携し、デジタル教科書や電子黒板を含むICT機器の効果的な活用方法について研修する機会を設け、活用を促進するとともに、活用事例を紹介するなど、資質の向上を図っていく。
- 小学校英語の充実を基軸とした小・中・高一体となった英語教育の推進を図る。

基本事業No.	4-1-2	基本事業名	豊かな心を育む教育の推進	基本事業 主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	--------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針					
①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）					
<ul style="list-style-type: none"> ■道徳の授業や体験活動を活かして、思いやりや感謝の心などを育てる。 ■学校と家庭の連携を推進し、基本的な生活習慣の定着を図る。 					
②対象	・児童 ・生徒	③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識や他人を思いやる心、正義感などを持つ ・あいさつをはじめとする基本的な生活習慣が身に付く 		

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)			
①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A 規範意識や思いやりの心をもっている児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値		75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			目標値		80.0	81.0	82.0	83.0	84.0
			実績値	78.4	82.1				
			達成率		103%				
結果		○							
B あいさつができていない児童生徒の割合	%	学校評価結果(教師)	成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
			目標値		88.0	89.0	90.0	91.0	92.0
			実績値	86.1	84.5				
			達成率		96%				
結果		○							
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
結果									
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
結果									

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
<p>A 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は84%の児童生徒が規範意識や思いやりの心をもてるようにする。</p> <p>B 平成24年度の値を基に、毎年1%増を目指し、平成29年度は92%の児童生徒があいさつができるようにする。</p>

4 平成25年度基本事業の取組方針	5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの起こらない学校づくりを進めるため、教員の学級経営力を高めていく必要がある。併せて、問題を一人で抱え込まず、学校全体で解決しようとする機運を醸成していく。 ■心身ともに健全な児童生徒を育成するため、誰にでも、いつでも気持ちの良いあいさつのできる「あいさつ運動」に市内全域で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの起こらない学校づくりを進めるため、学級経営研修会を実施した。また、問題を一人で抱え込まず、チームや学校全体で解決を図る取組を行った。 ■心身ともに健全な児童生徒を育成するため、「あいさつ運動」に各学校や地域で取り組んだ。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<p>A 規範意識や思いやりの心をもっている児童生徒の割合については、実績値が上昇し目標値を超えた。その要因としては、各種研修会において、共感的に児童生徒を理解できるような内容を取り入れたこと等が考えられる。</p> <p>B あいさつができていない児童生徒の割合については、実績値が下降したものの、目標をほぼ達成した。その要因としては、各学校や地域における登校時のあいさつ運動が行われ、児童生徒に意識付けがなされたこと等が考えられる。</p>

7 平成26年度基本事業の取組方針	8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けての取組を具体化する。 ■不登校の未然防止に向けた取組、不登校児童生徒への支援を重点的に行う。 ■市内の全児童生徒に「あいさつ」の意義を理解させた上で「あいさつ運動」に取り組み、いつでも誰にでも気持ちよいあいさつができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けての取組を実施する。 ■不登校の未然防止に向けた取組、新たな不登校児童生徒を生まない取組を重点的に行う。 ■市内の全児童生徒が「あいさつ運動」の意義を理解した上で取り組み、いつでも誰にでも気持ちよいあいさつができるようにする。

基本事業No.	4-1-3	基本事業名	健やかな体を育む教育の推進	基本事業 主担当課	保健体育課 学校給食課
---------	-------	-------	---------------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針					
①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)					
<ul style="list-style-type: none"> ■授業中の運動量を確保するなど、体育授業の改善に努めるとともに、一校一運動(体力作り)を推進する。 ■小児生活習慣病等の予防のための保健指導や各種検診等の適正な実施に努め、健康な体を育む。 ■学校給食を中心とする食育の充実に努め、基本的な食生活習慣を定着させるとともに、給食施設の充実を図る。 					
②対象	・児童 ・生徒	③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力がつく ・健康な体が育つ ・自分自身の健康管理ができるようになる 		

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)			
①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A 新体力テスト(8種目)において 県平均を超えた平均種目数 (小5・中2)	種目	新体力テスト結果	成り行き値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
			目標値		4.2	4.4	4.6	4.8	5.0
			実績値	4.0	3.3				
			達成率		79%				
			結果		△				
B 健康診断(腎臓)で要注意・ 要治療となった児童生徒の割合	%	健康診断結果	成り行き値	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5
			目標値		2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
			実績値	3.0	4.0				
			達成率		57%				
			結果		△				
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠	
<p>A 現在、半分の種目で県平均を上回っているため、平成29年度には5種目で平均を上回ることにした。</p> <p>B 過去3年間の検診で、最低値であった平成23年度実績の2.8%を維持することを目標とした。</p>	

4 平成25年度基本事業の取組方針	5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■体力運動能力調査の分析から、自校の課題を全職員で共通理解し、一校一運動の見直しを図る。また、平成24年度に作成した小学校体育指導リーフレット「きりしまっ子のチャレンジ運動これだけは！」を活用するなど、体育指導を充実する。 ■児童生徒の健康に対する意識を高めるため、生涯を通じて健康を維持できる知識を身につけさせる。 ■家族ぐるみで食習慣の大切さを認識する必要があるため、栄養教諭による食に関する指導を、保護者に対しても実施できる方法を検討する。 ■給食事業(センター方式・自校方式)の方針が決定されたことにより、年次的に施設整備を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■体力運動能力調査の分析を行い、各学校で児童生徒自身に「一輪車一人で100M」などの目標を持たせ、自発的な運動啓発ができた。 ■学校・地域・家庭が連携し、健康教材などを活用して児童生徒の健康意識を高める指導・教育を行い概ね達成できた。 ■栄養教諭を中心とした食の指導を行い、児童・生徒に対し食に関する正しい知識と食習慣の大切さを認識させるとともに、給食だよりの充実、献立表の工夫を図ることにより、保護者に対しても同様に周知を行った。 ■給食事業(センター方式・自校方式)の方針が決定されたことにより、年次的に施設整備を行うことができるようになった。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因	
<p>A 新体力テスト(8種目)において県平均を超えた平均種目数(小5・中2)については、3.25ポイント(種目)という結果で0.75ポイント減少した。その要因としては、学習塾やゲームといった生活の多様化で運動をする機会や身体を動かす時間が減少したためと思われる。なお、実施時のコンディションの問題等も併せて検証しなければいけない。</p> <p>B 健康診断(腎臓)で要注意・要治療となった児童生徒の割合については、4.4%と1.0%(約120人)の増加となった。その要因として児童生徒の健康に対する意識の低下とスマホやゲーム機器などが高度化し、生活習慣が一部、不節制になったりしたことが考えられる。</p>	

7 平成26年度基本事業の取組方針	8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■児童生徒の体力を向上させるため、学校の実態を把握させ、各学校の「一校一運動」や体育学習の充実に努める。 ■児童生徒の健康に対する意識を高めるため、養護教諭を中心とした健康教育の充実に努めるとともに、保護者に対しても啓発を行う。 ■児童生徒に望ましい食習慣を身につけさせる意識を高めるために、栄養教諭を中心とした食に関する指導の充実に努めるとともに、保護者に対しても啓発を行う。 ■計画に基づいて老朽化した給食施設の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■児童生徒の体力向上はもとより、身体の成長に合った運動を推奨し、従来の各学校の「一校一運動」を継続するとともに体育学習の充実に努める。 ■児童生徒の健康に対する意識を高めるため、担任や養護教諭と保護者が連携を取りながら、健康教育の充実に努めていく。 ■児童生徒に望ましい食習慣を身につけさせるために、栄養教諭を中心とした食に関する指導の充実に努めるとともに、保護者に対しても引き続き啓発を行っていく。 ■計画に基づいて老朽化した給食施設の改善を図っていく。

基本事業No.	4-1-4	基本事業名	特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進	基本事業主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	-----------------------	----------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
地域の特色や人材を活かして、活気ある学校づくりを行うとともに、保護者や地域住民が学校を訪れる機会を積極的に設ける。	
②対象	学校
③意図	地域の特色や教育力を活用して活性化する

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値					
A 地域の特色や人材を活かした教育活動の件数	件	実態調査	目標値		420.0	420.0	420.0	420.0	420.0
			実績値	474.0	654.0				
			達成率		136%				
			結果		◎				
B 「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に学校を訪れた人数	人	実態調査	成り行き値		20,000.0	20,000.0	20,000.0	20,000.0	20,000.0
			目標値		21,050.0	21,100.0	21,150.0	21,200.0	21,250.0
			実績値	21,001.0	21,030.0				
			達成率		100%				
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果		○				

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成24年度の値を基に、毎年5件増を目指し、平成29年度は500件の地域の特色や人材を活かした教育活動が行われるようにする。
B 平成24年度の値を基に、毎年50人増を目指し、平成29年度は21,250人の方が学校を訪れることができるようにする。

4 平成25年度基本事業の取組方針 **5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■地域ぐるみで学校を応援していこうとする機運を高めるため、学校のニーズを的確に把握し、有効な人材活用を促進する。 ■世界ジオパーク認定に向け、副教材「ふるさとの山霧島山」を活用した授業やジオガイドを活用した登山等を奨励し、特色ある教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の特色や人材を活かした教育活動を積極的に行う学校の取組を紹介するなどして、目標を達成することができた。 ■世界ジオパーク認定に向け、副教材「ふるさとの山霧島山」を活用した授業が各学校で実施され、ジオガイドを活用した体験学習等の特色ある教育活動が行われ、児童・生徒が霧島山に対する理解を深めるとともに、霧島山への愛着と誇りをもつことができた。
--	--

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

<p>A 地域の特色や人材を活かした教育活動の件数については、実績値が平成24年度から180件増加し、目標値を大きく超えた。その要因として、開かれた学校づくりに向けて各学校の意識が高まり、地域の人材を招いての教育活動が活性化したためであると考えられる。</p> <p>B 「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に学校を訪れた人数については、実績値が微増であるが、目標をほぼ達成した。その要因として、各学校が、県民週間期間中に、工夫した行事を実施するなどの手立てを講じたためであると考えられる。</p>

7 平成26年度基本事業の取組方針 **8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■自校の実態を生かしつつ、地域の人材活用を図り特色ある開かれた学校づくりを推進する。 ■教職員、児童生徒が霧島ジオパーク及びジオパークについての理解を深めることができるような方策を具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の多様な人材活用が活性化できるようにしていく。 ■教職員、児童生徒が霧島の地形・地質・自然及び霧島ジオパークについての理解を深めることができるような方策を工夫し実施する。
---	---

基本事業No.	4-1-5	基本事業名	教育環境の整備	基本事業 主担当課	教育総務課 学校教育課
---------	-------	-------	---------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)

- 年次計画に基づき、大規模改造等の校舎整備を行い、児童生徒の安心・安全な教育環境を確保する。
- 児童生徒を事件、事故等から守るため、安全教育の更なる充実を図るとともに、地域や関係機関等との連携強化に努める。
- 適切な公的支援を行い、児童生徒が安心して教育を受けられるように努める。

②対象

・児童
・生徒

③意図

・適切な教育環境で教育を受けられる
・安心して教育を受けられる

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	非構造部材(天井等)の耐震基準を満たした学校施設の割合	%	体育館等の非構造部材の耐震化率	成り行き値	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0
				目標値	83.0	92.0	94.0	96.0	98.0	100.0
				実績値	83.0	83.0				
				達成率	100%	90%				
				結果	○	△				
B	児童生徒にとって安心して教育を受けられる環境が整っていると考える学校の割合	%	学校評価結果	成り行き値	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
				目標値	60.0	69.0	69.5	70.0	70.5	71.0
				実績値	68.1	66.0				
				達成率		96%				
				結果		○				
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
D				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 施設整備計画に基づき年次的に改修していくことで、平成29年度までには非構造部材の3分の1の改修を終えることとした。
B 平成24年度の値を基に、毎年0.5%増を目指し、平成29年度は71%の学校が児童生徒が安心して教育を受けられる環境が整っているとなるようにする。

4 平成25年度基本事業の取組方針

- 非構造部材の耐震化が懸案事項であるため、国の動向を注視しながら適切な対処方法の検討を進める。
- 教育を受ける機会を保障するため、適時、適切に各家庭に対し財政的な支援を行う。
- 関係機関との連携による通学路の安全対策のための合同点検を実施するとともに、防災教育モデル実践事業等による防災教育の充実を図る。

5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況

- 非構造部材の耐震化については、平成25年度は、国の動向を注視した状態が続いたため、対処方法の検討を引き続き進めた。
- 教育を受ける機会を保障するために、通学距離小学生4km、中学生6km以上の保護者に対して遠距離通学費補助金を支給したり、経済的理由によって就学困難な児童生徒に対して必要な支援を行った。
- 学校通学路の安全対策を万全にするため、合同点検を市、警察及び各学校が連携し8月に3日間かけて実施した。その結果、木原小中学校の県道471号線など危険箇所を再確認し、今後の対応を検討した。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- A 平成25年度には、非構造部材の耐震化に対して、国の方針が明確でなかったため、事業が進まない状態であったが、方針が定まったことにより、次年度以降より、実施設計を開始し、事業を進めていく予定としている。
B 児童生徒にとって安心して教育を受けられる環境が整っている学校の割合は、実績値がやや下降したものの達成率は96%で目標をほぼ達成できた。その要因としては、学校長を通じて全ての保護者に就学援助等の必要な対策が周知されたことにより、対象となる保護者からの申請に適切に対応できたことが考えられる。

7 平成26年度基本事業の取組方針

- 非構造部材(天井落下等)の耐震化について、実施設計行う。
- 天井落下の危険性のある体育館等の改修計画を策定する。
- 教育を受ける機会を保障するため、適時、適切に各家庭に対し財政的な支援を行う。
- 通学路の安全対策については、引き続き合同点検を含む関係機関との連携を図ることとし、防災教育においては避難行動への対応力を高め、地域との連携に取り組んでいくこととする。

8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性

- 平成27年度に非構造部材の耐震化を実施、危険性のある体育館については、全て改修を行う予定としている。
- 教育を受ける機会を保障するため、引き続き、適切に各家庭に対し財政的な支援を行っていく。
- 通学路の安全対策については、引き続き合同点検を含む関係機関との連携を図る。

基本事業No.	4-1-6	基本事業名	幼稚園教育の推進	基本事業主担当課	学校教育課
---------	-------	-------	----------	----------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

様々な体験を通して人とかかわる力や、基本的なしつけを身に付けさせるとともに、小学校へのスムーズな接続を図る。

②対象 園児（3～5歳）

③意図 基本的な生活習慣が身に付く

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成（105%以上） ○目標をほぼ達成（95%～105%未満） △目標を未達成（95%未満）

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合	%	学校(園)評価	成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
				目標値	88.0	88.2	88.3	88.4	88.5	88.6
				実績値	86.7	85.8				
				達成率	99%	97%				
				結果	○	○				
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成23年度実績の88.0%を基に、年次的に基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合を高めることとした。

4 平成25年度基本事業の取組方針

園児の小学校への円滑な接続を図る必要があるため、基本的な生活習慣等が身に付くことを重点テーマとして教育活動を行う。

5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況

各幼稚園において、基本的な生活習慣の定着に向けての保育が充実するよう、幼稚園教諭等研修会などを開催した。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 基本的なしつけや集団行動が身に付いた園児の割合については、目標をほぼ達成したものの、実績値が昨年度よりわずかに下回った。その要因としては、幼稚園教育と家庭教育の連携が十分に行われなかったこと等が考えられる。

7 平成26年度基本事業の取組方針

小学校への円滑な接続を図るために、幼稚園教諭等の研修を充実させ、幼小連携を推進する。
幼稚園保護者向けの出前講座等、保護者への啓発を行う。

8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性

幼稚園・小学校の接続期の保育や指導の在り方について、研修を行うとともに、公立幼稚園の教育課程へ明確に位置付けていく。

基本事業No.	4-1-7	基本事業名	魅力ある高等学校教育の推進	基本事業 主担当課	国分中央高校
---------	-------	-------	---------------	--------------	--------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 進学・就職指導の充実を図り、専門性豊かな人材づくりに努め、生徒の進路決定率を高める。
- 体育館など、教育環境の改善・充実を進め、高等学校の活性化を図る。

②対象
・市立高校の生徒
・学校の施設、設備

③意図
・専門性豊かな人材に育つ
・教育環境が整う

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A 高度資格取得のべ人数	人	市立高校の管理データ	成り行き値	750.0	750.0	750.0	750.0	750.0	750.0
			目標値		770.0	780.0	790.0	800.0	810.0
			実績値	752.0	875.0				
			達成率		114%				
			結果		◎				
B 就職・進学率	%	市立高校の管理データ	成り行き値	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
			目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績値	97.0	100.0				
			達成率		100%				
			結果		○				
C 「学校が楽しい」と回答した生徒の割合	%	市立高校の管理データ	成り行き値	88.0	87.0	86.0	85.0	84.0	83.0
			目標値		89.0	90.0	91.0	92.0	93.0
			実績値	89.0	93.0				
			達成率		104%				
			結果		○				
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 平成24年度から、生徒数が1クラス減になるため、過去3年間の最低値である平成24年度の761人を基に、年次的に10人ずつ増やすこととした。
 B 将来に対する目的意識を持たないまま卒業する生徒を皆無とするため。
 C 平成24年度実績をベースとして、平成23年度の92%を最終的には上回ることを目標とした。

4 平成25年度基本事業の取組方針

- 専門高校のさらなる魅力アップのため、年次計画に基づき学校施設等の整備を進める。
- 新設学科の初めての卒業生が誕生する年度となるため、一人ひとりが希望する進路を実現できるよう支援を行う。

5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況

- 理科や生活文化科の実習室を主とした校舎が平成25年10月に竣工し、茶道・華道・着付をはじめとする専門実習が充実し、さらに魅力ある専門高校となった。
- 一人ひとりが希望する進路が実現できるように相談体制を整えたり、就職先・進学先の開拓を行ったりした。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- A 資格取得のための実習室等の教育環境の改善・設備の充実を図った結果、高度資格取得者が目標値を上回った。
 B 一人ひとりが希望する進路が実現できるように個々の生徒に合わせた支援を行った結果、目標値の100%に達成した。
 C 第3グラウンドの照明施設の設置や5号棟の新設をはじめ学習環境等の整備に努めた結果、生徒が充実した高校生活を送れるようになり、目標値を上回ることができた。

7 平成26年度基本事業の取組方針

- 教育環境の改善・充実を図るため、国分中央高校校舎改築工事に伴う渡り廊下・昇降口の設計委託業務を行う。
- 生徒数の確保と進学・就職率の更なる向上を図るため、部活動等の支援や進学・就職指導の充実を図る。

8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性

- 教育環境の改善・充実を図るため、国分中央高校校舎改築工事に伴う渡り廊下・昇降口棟の整備や施設の改修、また、屋内運動場新設に向けた工事に着手する。
- 生徒数の確保と進学・就職率100%を維持するために、外部指導者等をはじめとする部活動等の充実・強化や個々の生徒に合わせたきめ細やかな進学・就職指導に努める。